平成２７年度第１回大和市文化財保護審議会会議　会議録

会議名 （審議会等の名称）		平成２７年度第１回文化財保護審議会
開催日時		平成２７年８月１１日（火曜日）１４時～１６時
開催場所		大和市生涯学習センター　１階　１０１会議室
出席状況	委員	５人
	その他	公益財団法人スポーツ・よか・みどり財団　３人
	事務局	文化スポーツ部長、文化振興課長、市史・文化財担当係長、他担当２人（計５人） 文化スポーツ部文化振興課市史・文化財担当　内線（５２２５）
	傍聴人数	１人
公開・非公開の状況		■公開　　□非公開　　□一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由		
審議又は検討経過及び結果		**（１）会議次第** １）平成２６年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について ２）平成２７年度文化財保護事業について **（２）審議及び結果** 主な内容は次のとおり（●：委員　◆：説明者） **１）平成２６年度郷土民家園指定管理業務の管理運営状況の評価について** ●「職員の配置及び育成」に関して、県博物館協会に加盟すれば、研修や情報収集の機会が得られるので利用してはどうか。 ●評価については概ねよろしい。「地元に根付いた事業を展開している」に関しては、指定管理者が変わると地元への定着という継続性が失われてしまう危惧ある。学芸員資格者が配置されているが、指定管理期間が終了してもこのような職員をケアできる事業者でないと問題がある。事業の継続性、地元と関わっていく持続性、質的向上について、市はどう考えているか。 ◆２８年度より新しい指定管理期間となるが、募集要項・仕様書では民俗分野学芸員または同種の施設での管理運営経験者を含む２名を常駐配置する旨記載し、質の確保を図っている。業務継続性という点では、前指定管理者のもとで雇用されていた職員の継続雇用に配慮するよう記載している。 ●新しい施設の整備などがなければ、入館者数が激的に伸びることは無いだろう。行事については、これ以上行うのは無理ではないか。職員に無理な負担がかかるのではないか。 ●お祭り行事にあわせて骨董市のような特色ある行事を取り入れてはどうか。 ●施設の面的広さから難しいのでないか。市には施設の拡大を考えてもらいたい。 ●泉の森全体で連携する企画はできるだろうか。施設ごとに扱うテーマの差別化ができれば、人の回遊は確保できるのではないか。 ◆以前、市文芸祭の一環として、郷土民家園で俳句の展示を行ったことがあったが、アクセスに難があるとの意見から、現在は行っていないという実情がある。立ち寄るという来客誘導は見込めるが、特定の目的のために民家園に行くという企画では集客が難しいと思われる。

	●施設がシャトルバスで結ばれるとよいのではないか。 ●（シャトルバスが運行されることで）泉の森全体の利用が促進されるとよい。 ●年中行事についは単独の事業ではなくて、年間を通じた行事として理解が深まるような企画としていくことが必要とされているのではないだろうか。 ●例えば園の協力員制度などを整え、人材を育て、行事や活動が広がっていくようにしていった方がよい。 ●大和市の場合、一つの施設ではなく市の全体を対象とした友の会制度でよい。 ●適正な入場者数ついてどう考えるべきだろうか。 ●とりあえず、前年より増ということになるか。 ●それだと永久に増え続けることになってしまう。普通にしていれば入館者は減る。 ●園の活用については、学芸員が主体となるのではなく、市民参加を得て事業実施する方法を検討してはどうか。 ◆学芸員が配置されているので、学芸員が中心となって園の活用方策を企画立案し、実現してくものだと考える。 ●現在の指定管理者は、自然観察センターの指定管理も行っているので、自然と文化の分野について、相乗効果のでる運営をしてほしい。 ●「利用者の苦情や意見の掌握・対応」に関して、市民意見を掌握しているが、これついてどう対応するかは今後課題となる。 ●申し込み制の事業についてはアンケートをとっているが、それ以外の事業についても、毎回でなくてもよいのでアンケートをとることができれば、改善につながるのではないだろうか。 **２）平成２７年度文化財保護事業について** ●つる舞土曜講座に関して、事業内容が、展示解説・テーマを決めた講話・体験講座と多様な事業となっており、「講座」という事業名については再検討した方がよい。 ●文化財保護の対象の捉え方も変わってきていることから、収集民俗資料が収納されていた土蔵についても保護の対象として考えた方がよいのではないか。 ●指定管理については、当審議会以外の評価組織はあるのか。 ◆郷土民家園については、本審議にて意見をうかがい、その後、公表する手続きとなっている。 ●審議内容について、指定管理に関することのほかに、文化財事業に関する議論をもっと行った方がよいのではないか。 **２、その他** ●絵本（市刊行物）を刊行する場合には、シリーズの既刊分の情報を掲載するとよい。